

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272800226		
法人名	株式会社エクセルシオール・ジャパン		
事業所名	グループホームいきいきの家鴨川		
所在地	千葉県鴨川市古畑317-1		
自己評価作成日	平成28年1月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成28年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私どもの理念である「いつまでも”自分らしく”いられる生活」のもと、次の4点に重点をおき入居者のご支援を行っております。

- ①個別ケアの確立
私たちは「その人らしさを大切に」を合言葉に入居者のご希望に添った生活を支援します。
- ②心の通う介護
私たちは入居者が「安心して生活ができる」ように笑顔と真心で接します。
- ③地域との連携
地域の方々と交流の機会を持ち「地域から愛される存在」になります。
- ④向上心とチームワーク
介護のプロとして常に向上心を持ち知識と技術習得に努めます。また「ともに支えあう心」を忘れずにチームワークを大切にします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームいきいきの家鴨川」は平屋造りとなっており、施設内は明るく、十分な介助スペースと避難経路が確保されている。浴室にはリフトが設置されており、身体状況に応じた支援が可能となっている。近隣に消防署があり、相談や助言を得ていると共に、火災や地震等の災害時・緊急時の救急要請等にて協力体制が整備されている。法人内では「ホットライン制度」が導入されており、直接法人へ意見が言える仕組み作りがなされている。また、資格取得支援・保育所費用一部負担等があり、離職防止及び働き易い職場環境の整備に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に掲示しており朝、夕の申し送りの際には必ず目にする事ができる。又ネームプレートの裏にも記入されており常時、確認が出来るようにしている。個別対応の重要性と共に理念の理解を常に深めるように指導している。	「いつまでも自分らしくいられる生活」を主眼とした施設理念を掲げており、事業所内に掲示している。ネームホルダーの裏に法人理念を明記すると共に、入職時に理念が明記している手帳を配布する等、常に理念を意識しながらサービス提供が出来よう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	人員不足により共同作業の参加はできないが寄付や周辺の除草などは地域住民の方々の意向に沿うようにしている。又、夏祭りなどの行事には積極的に参加をしている。	地域住民とは日頃から挨拶や声掛けを交わす等、良好な関係を築いている。また、地域行事への参加や地域ボランティアの受け入れ等、地域住民との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議への出席を行い地域の民生委員にサロンなどで認知症への啓蒙が必要であれば声をかけて欲しいと表明している。家族、近隣住民には協力できることがあれば相談して欲しいと声をかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の予定で開催している。市職員、訪問看護師を交えその時々の問題点について話し合い助言や指導をお願いしている。又、意見や苦情に対しては謙虚に受け止め改善する為に善処している。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、地域包括職員・民生委員・訪問看護師・家族等が出席している。会議では施設活動報告や意見・情報交換を行い、施設の理解促進及びサービスの質の向上に繋げている。また、会議当日は駅までの送迎もっており、出席率向上にも取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請書等の提出時などに現状の報告や相談を行っている。法解釈についての相談や不明点に関する質問には親切に対応してもらえる。入居者様の紹介などをしていただける時もある。	日頃より市とは業務における相談や報告等を行い、連携を図っている。運営推進会議や鴨川市介護保険事業所協議会への参加等を活用し、市やサービス機関と協力関係構築に向け取り組んでいる。	

【千葉県】グループホームいきいきの家鴨川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の違法性は全員が理解している。本人の安全を担保するうえでやむを得ず行う場合も家族からの同意を得、限定的に短時間のみ行う様に指導、徹底している。	身体拘束排除・虐待防止に関する研修への参加及び研修報告を通じて、職員へ意義の理解促進に努めている。日中は玄関の鍵の施錠は行わず、自由な生活の支援に努めている。必要な場合には、慎重に検討を重ねながら家族の同意の上、身体拘束をできる限り最小限にするよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内で作られているマニュアルや市で出している啓発資料などで周知している。何が虐待にあたるのか言葉や態度も含めて注意するよう指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の研修に参加し、その内容を伝えている。どの様な方が対象となるかなどを折に触れ周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに説明をしている。疑問点については適宜、相談して頂きたい旨、お願いしている。ご署名は納得されてからして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご家族に伺う機会をつくっている。面会時や連絡時には必ず気付いた点や気になることなどを伺う様にしている。苦情に関しては市の窓口や担当者に訴えることができると契約時に説明している。	家族の訪問時・電話連絡時・運営推進会議を通じて、家族の意見・要望を確認している。また、定期的に季刊誌や手紙等で入居者の生活状況を伝えており、信頼関係の構築に努めている。挙げた意見・要望については、会議・連絡ノートを活用し、周知・検討を行い、適切な改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットリーダを通して意見、不満を聞く機会を設けている。カンファレンス時に個々の意見を聞く機会はある。不満に対しては真摯に検討、改善を行い負担の軽減に努めている。	会議や連絡ノート等を通じて、職員からの意見・要望・提案等を確認している。法人内では「ホットライン制度」が導入されており、直接法人幹部へ意見が言える仕組み作りがなされている。また、資格取得支援・保育所費用一部負担等があり、離職防止及び働きやすい職場環境の整備に努めている。	

【千葉県】グループホームいきいきの家鴨川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当やレベル手当の支給、残業ゼロの実践、休日やリフレッシュ休暇、有給の取得の励行を行っている。体調不良時には休める様に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市の育成事業に繋げ資格取得を支援している。法人主催の勉強会の参加を積極的に促している。又、資格支援制度を設け経済的負担の軽減に努めている。シフトの変更を含め学びたいとの意欲を大事にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1度地域の管理者の集いに参加し、意見交換や現状の問題点について話あう機会がある。法人主催の会議、勉強会の参加は随時行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時に施設見学を必ずお勧めして内部の様子を説明すると共に現状の問題点について相談をして頂ける様に働きかけている。他のサービス情報の提供も含め信頼頂ける関係の構築を心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族自身の思いや不満も含め受け止める様に傾聴している。それぞれの辛さや心の痛みを理解するべく受容することを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時や見学時には他のグループホームや施設の見学を勧めている。本人の望む場所で望むサービスが受けられることも説明し当ホームの利点や長所を理解して頂けるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様の持つ特技や特性を活かし、職員と共に共同生活を送る仲間と認識しながら仕事をしている。時には助けをもらい相談にのってもらうなど対等の立場を築いている。		

【千葉県】グループホームいきいきの家鴨川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への連絡、報告は密に行っている。家族にお願いできること(外出、外泊、面会など)は積極的に支援している。足りない物品に関しても補充時の面会も含めて機会を作る様配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に本人が希望すれば自宅近所により知り合いなどとの交流を支援している。面会時には気楽に話ができる様な環境に配慮している。	友人・家族の来訪を随時受け付けていると共に、希望に応じて電話や手紙等のやり取りも支援しており、馴染み関係継続に配慮している。また、馴染みの商店や催し物等への外出も行っており、馴染みの場所での楽しみも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間にはいり円滑な交流ができる様に配慮している。随時、気分転換をはかり傾聴することによって不満を溜め込まない様に配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去や申し込みキャンセルの場合にも感謝と労いの気持ちを大事にしている。いつでも力になれることを伝え地域行事で顔を合わせる事があれば気軽に言葉を交わせる関係作りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりとの話しあい傾聴を大事に、意向や希望の把握に努めている。本人の思いや拘りを大事に支援している。本人にとっての幸せは何かと常に模索している。	本人・家族から意向・身体状況・生活歴等を確認している。また、医療機関や他のサービス事業所からの情報提供を受ける等、より詳細な情報把握に努めている。日々の記録や連絡ノート等を活用し、職員間・家族間の情報共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、担当ケアマネと連携をとり情報の収集に努めている。本人、面会者などからの聞き取りを常時行い生活歴の把握を行っている。回顧法による聞き取りも重視している。		

【千葉県】グループホームいきいきの家鴨川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの生活のリズムを大事にしている。したいことや興味のあることを聞き取り生活の充実に反映させるべく努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを通して課題を明確にししながら介護計画を作成している。ケアに反映できる様に指導を行っている。	職員間で会議で検討を行い、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認及び評価を行い、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。	担当者会議において、家族・本人が出席し、意向を確認するもしくは、意見の照会を行い、記録する事により、より本人・家族の意向を反映させた介護計画の作成に取り組んで頂くよう期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、ケア記録、申し送りノートなどに記録し情報を共有している。問題点を把握した時点で見直しを行い介護計画の作成に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズに合わせて支援している。趣味や家族、知人との交流、嗜好品の購入など適宜、対応している。他業種の支援が必要な場合は家族と経費の点などをよく話しあうこととしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会と連携をとり随時ボランティアの紹介をお願いしている。入居者の方の状態に応じて図書館、資料館、博物館などを見学、利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、家族の要望に添い馴染みの医療機関に受診できる様に配慮している。必要に応じて担当医と連絡をとり体調管理の相談等を行っている。	希望のかかりつけ医への受診が可能となっていると共に、定期的に内科医の往診も実施されており、適切な医療受診を支援している。また、定期的に訪問看護を実施しており、適切な健康管理も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と連携をとり常時利用者の情報を共有している。状態に合わせて直ぐに連絡をとり体調の管理に繋げている。急変時の対応や受診の可否について常時連絡を行い体調変化に迅速に対応している。		

【千葉県】グループホームいきいきの家鴨川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はほぼ毎日面会に伺い、様子を伺いながら病棟看護師や医師との連携を図っている。退院後の相談も行える様に医療機関とは円滑な関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の希望を契約時に伺い急変時や往診、訪問看護時に医療機関に伝えている。ホームでできることを明確に話し理解をお願いしている。また、最後はどの様に過したかなどを常に家族と話し合っている。	終末期・重度化における施設方針を説明し、同意を得ている。医療機関とは急変時や24時間の連絡可能な体制が構築されている。必要時には、家族の意向を踏まえながら、医師・看護師・必要機関と情報交換を行い、適切な支援が行える様、協力体制の整備に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については常に話し合っている。状態に応じた救急対応については医師や看護師に相談、指示をもらいマニュアルをその都度作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災時、夜間時を想定して実施している。訓練の報告書を作成し反省点を明確にした上で次回の訓練に活かす工夫をしている。地域の消防の方には気軽に相談したり助言を頂いている。	火災報知機・スプリンクラー・自動通報機等の消防設備を設置していると共に、定期的に避難訓練及び設備点検を実施している。避難訓練は消防署立会い訓練を年2回行っており、夜間想定等、様々な状況に応じた避難方法の確認を行っている。訓練後には、職員が反省点を提出し次回に活かす等、全職員が災害時の理解向上を目指している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室対応にてプライバシーは尊重されている。尊厳を傷つけない様な対応、言葉使いを重視した職員教育を行っている。訪室時にはノックをし声をかける様に指導している。	プライバシー保護・接遇・個人情報保護における研修を実施していると共に、会議等を活用して職員への意義の周知を図っている。また、入居者の性格や意向に合わせて、声掛けを工夫し、自分らしくいられる生活を支援している。	

【千葉県】グループホームいきいきの家鴨川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との関わり合いを大事に傾聴に努めている。希望や要求、要望があれば実現できるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の都合や気持ちを大事にしている。食事時間をずらす、入浴日を変更するなど臨機応変に行っている。突然の外出希望にもできるだけ対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師、理容師を選択できるようにした。衣類にこだわりのある方には毎回、自分で選択していただける様に声かけをしている。外出時には希望通りに着るものをお出している。化粧品などの購入にも協力している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの好みを職員は把握している。調理をしながら下ごしらえや盛り付けのお手伝いをお願いし味見をしながら準備をしている。調理をする音、香りを実感していただいている。お盆拭きやテーブル拭きなどその方の能力に応じてお手伝いをお願いしている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備・片付け等、共同で行っている。食材の配送は地域の商店に委託しており、新鮮で地域の旬の食材を取り入れた食事が提供されている。定期的に行事食・手作りおやつ等を実施し、食の楽しさを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量は毎回確認している。不足があれば本人が望む物で補充を試みている。プリン、ゼリーや栄養補助食品も視野に入れ医師などとも連携をとりながら適切な栄養摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがい、歯磨を毎食後行い、口臭、入れ歯の調整など常時、歯科医へ受診をしている。医師の指導の下、舌苔の除去などに配慮している。入れ歯は毎晩、入れ歯洗浄剤にて衛生管理を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下剤の調整に医師と共に取り組み、便失禁の軽減に努めている。パット類の見直しを行い快適に過ごせる様に配慮すると共に時間ごとに声をかけてトイレへ誘導し自立排泄を目指している。	排泄チェックリストを活用しながら個々の排泄パターンを把握しており、声掛けやトイレ誘導を行い、排泄の自立を支援している。また、食事や体操等を工夫しながら自然排便を促すと共に、必要に応じて、医師・看護師と相談しながら適切な排便コントロールを行っている。	

【千葉県】グループホームいきいきの家鴨川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	積極的に乳製品をとり、整腸によい食品摂取に取り組んでいる。立位、歩行、ラジオ体操など個々に合わせて日常生活に取り入れて職員と共に行っている。看護師による腹部マッサージの指導をお願いしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日時はある程度は設定させて頂いている。その上で本人の希望を伺い、無理強いはいしない様に指導している。入浴が負担にならない様に足湯や清拭、陰部洗浄などを提案することもある。	入居者の希望や体調に応じて、柔軟に対応している。必要に応じて、清拭・シャワー浴・部分浴を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。リフト浴が設置されており、入居者の身体状況に合わせた入浴支援が可能となっている。	入浴実施における記録を適切に行い、清潔保持が適切に行われているかを全職員で情報共有できる様、取り組みを見直していただくこと期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室は本人の希望に添った環境作りに配慮している。温度、明度、湿度や音など適切な安眠環境を提供している。本人の習慣に倣い、テレビやラジオ、読書など自由に楽しんでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を毎回、処方される度に確認している。見直しや処方変更の場合は1~2週間の目安でバイタルなどの記録を小まめにとり変化には迅速に対応し医師への相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や嗜好の聞き取りは事前に行い、職員間で共有している。共に暮らしながら様々な試みを通して適した支援を模索している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	常に会話を通して希望を聞き取り、行きたい場所や欲しいものなどの把握に努めている。遠方への外出は無理ではあるが家族には折に触れ伝える努力はしている。	日頃から散歩・ドライブ等を実施しており、戸外に出る機会を設けている。また、ウッドデッキを活用しながら気軽に外の空気に触れられる環境が整備されている。定期的に外出会を企画・実施しており、戸外での楽しみを支援している。	

【千葉県】グループホームいきいきの家鴨川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、現金の所持、管理をして頂いている。買い物時には自分で支払いができる様に現金をお預けするなどの工夫をしている。買いたいものがあれば随時、職員と共に買い物に行きお金を使用する機会を持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所内の電話やフロアーの子機から家族や親類に常時、電話をかけて頂いている。携帯電話を所持している方もおり、自由に連絡を取り合っている。書簡のやり取りも希望時には支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理、整頓を心がけ清潔な空間作りを目指している。季節の花や鉢植えを玄関に置き居間には、月行事に合わせた掲示物を工夫している。入居者様手作りの作品などを飾り、居心地よい環境作りに配慮している。	共有スペースには、椅子・ソファ・テーブル等が設置されており、自由にくつろげる環境作りがなされている。また、ウッドデッキや庭ががあり、園芸・外気浴等、気軽に外の空気に触れる事が出来る環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を所々に置き、気の合う方々と過ごせる様に工夫している。小人数によるドライブや外出を企画したり各居室、フロアーの行き来を自由に行い気の合う仲間作りを支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた物や愛着のある物をお持ち下さるように入居時は説明している。本人の嗜好にあわせて家具や家電など、危険を伴わない物であれば自由にお持ち頂いている。	本人・家族の希望に応じて、馴染みの品々を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できる様に配慮している。洋風・和風仕様の使い方が可能となっており、入居者の生活歴・好みに応じた居室となっている。各居室に収納・鍵が設置されており、プライバシーに配慮した設計となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室には見やすい字で所在を明確にしている。全館バリアフリーになっており、手すりの設置も行っている。行動の把握に努め見守りや声かけを行い必要があれば付き添うなどして目的を達成して頂いている。		